

社山～皇海山縦走山行報告

【山城】足尾山塊

【ルート】社山～皇海山

【登山方法】テント縦走

【メンバー】CL 柘植、吉川（記）

【行動日】5月6日(金)～8日(日)

【行程】5/6 土気 4:00－東北道－日光宇都宮道経由－銅親水公園（駐車）8:40－(南尾根経由)社山 11:40
－1792m ピーク手前水汲み－1816m ピークを下った窪地 14:15 幕営

5/7 幕営地 5:20－黒檜岳 6:33－シゲト山 8:06－三俣山 10:00－国境平 1:15 水汲み（幕営）

5/8 幕営地 4:45－皇海山 6:50－鋸山 7:45－六林班峠－庚申山荘 11:20－国民宿舎かじか荘 13:00－
タクシーで移動－銅親水公園駐車場－北関東道－東北道経由－帰葉

【内容】5/6(金) 晴れ

昨年植樹祭に参加し、植樹した山の斜面を右手に見て林道歩きから社山の南尾根に取り付く。踏み跡があり、はっきりした尾根を急斜面も交えひとしきり大汗を流し、標高差 350m 余り登ると南尾根の稜線 1150m 付近に登り着く。一昨年歩いた中倉尾根の北面の荒涼とした山肌を見、すぐ西側の大平山への南東尾根には、林道が山肌に刻まれていた。



出発地点の銅親水公園付近の景色



社山南尾根の稜線に出たところ（中央は備前楯山）



上部の白樺と笹原のなかを行く



社山の山頂

そんな景色の中でも芽吹きが始まっている。1566m のピークから笹原にダケカンバ林となり爽快に進む。前方に登山者を見るようになると、間もなく社山山頂に立つ。足元に中禅寺湖、正面に男体山

を見る。少し戻って、針葉樹林の中にテープを見つけ、北西の急斜面を下ると、目の前に、笹原の尾根が蛇行し広がっている。水場は、その最低鞍部から、中禅寺湖側に下った所に見つける。見通しの良い笹尾根のピーク越え右手に黒檜山を見て間もなく、広い窪地地帯を幕場とした。夜、雨がぱらついていたが朝方星を見た。



中禅寺湖と太郎山方面



これから進む中禅寺湖南岸尾根と遠く日光白根山

5/7(土) 晴れ 風強い



朝の幕場からみた雲海に沈む足尾平野

備前楯山が雲海に浮かび、笹の稜線は朝日を受け穏やかな景色だが、昨夜の雨で、膝から腿丈の濡れた笹を掻き分け進む。



1 ピッチで黒檜山



次はシゲト山



シゲト山の先に皇海山が見えてくる

大平山への分岐からは、シラビソ林に変わり、平坦で迷いやすいが、プレートや、テープを辿り、地図上の黒檜岳山頂を通り、その先に、黒檜岳の山名のプレートを下げた、東峰ピーク先の、雨量計脇からシゲト山を目指す。途中、西向きの祠があった。この辺りから、少しずつ松本溪谷側を望むようになり、三俣山まで、ルートも気を付けていても間違いやすいピークを3か所通過する。



三俣山手前の倒木地帯



三俣山の山頂（ここより群馬と栃木県境に行く）



三俣山の下りから行く手を望む



左奥が三俣山、笹原を進む

シラビソやシャクナゲの自生する痩せ尾根や、笹尾根、倒木帯を越え県境尾根に交わるとほどなく三俣山、オオナラギノ頭を通過する。前方に皇海山を見ながら笹を下って行くと、ルートの東側は大きく崩れ、岩壁、奇岩が松木川に荒々しく落ちている凄惨な景色を見る。



県境尾根中盤の岸壁地帯



奇岩怪石のなかの吉川さん

その崩れた淵を歩き日向山を越え鞍部が、国境平と思いここを幕営地として、群馬県側に水場を求め下る。リーダーは、水探しが得意と自負しているだけあって、一目散に下って行った。まだ日も高く、夕飯前に思い思いにまったり過ごし至福の時は、リーダーは真っ赤な顔をして、この上もなく幸せそうでしたよ！18時頃にはシュラフに潜り込む。



日向山の向こうに皇海山が迫る



国境平で幕営

5/8(日) 晴れ 強風

昨日の早寝で、寝てもいられなくなり早起きした。のんびり支度をするも、4時45分に出発する。少し登った台地に国境平のプレートや水場の標識もあった。松木川に尾根を下すモミジ尾根の合わさる辺りは、広い平坦地でルートを取りにくい、よく見ると、県境に赤と黄色のプレートが木に打ち付けられているので、気を付ければ迷うことはない。山頂直下は、傾斜もきつくなり今回始めて、雪を踏んだ。昨日三俣山の下りで雪山装備の単独者に会ったが、アイゼンは不要だった。我々は山の様子からアイゼンは車に置いてきたが正解だった。標高 500m をワンピッチで登り皇海山に到着する。



展望のない皇海山の山頂



降りはじめると前方に鋸山が迫る

ここからは登山道を下り、鋸山から六林班峠を下り庚申山荘へと進む。背丈以上の笹を掻き分けたり、沢筋のガレが多くあったりと、赤破線の基準がよくわからないが、かなりの難路に思えた。



鋸山の手前から来し方を振り返る



鋸山の山頂



六林班峠へ向かう



庚申山荘でお疲れのポーズ

庚申山荘の下りは、新緑がとても綺麗だった。一の鳥居からヤマツツジやミツバツツジ、山桜など愛でながら車道歩きして、銀山平のかじか荘に到着。ソフトクリームを食べながらタクシーを待つ。下界の味は、おいしかったあ～

タクシーで、銅親水公園に戻り、草木ダム側の国民宿舎で三日間の汗を流し帰路に着く。今回、山行前の下調べをあまりできなかったが、天候に恵まれて、稜線の見通しも良く、日程にも余裕があり、バリエーションルートなのにまったく山歩きを楽しめた。テープや道しるべのプレートも数多くあり、見逃さない限り迷うこともなさそうだが、うっかりすると外しやすいピークも幾つかあった。

記録：吉川りつ子